

よへり、時にしたがひて、昔の人はあはせけれども、今の世にはさしもみえずなり行や、ものゝをとりふるなりけり、そのおり／＼にあはせずとも、おなじことよなどいふは、世のするの人のこゝろなめり侍従は乙侍従といふ女房のあはせせめぬれば、其名をよぶといへり、山田の尼をはじめは侍従といへるゆへ、此尼のあはせせめしともいへり、いづれにてもその袖の香も、おぼゆばかりのにはひなり、黒方はたきものゝにほひにては、玄の玄といふ心にて名づけたるを、くろぼうとかながきに書けるを、後の人あやまりて、黒方とかくといへり、あやまりをあらためず、その字を書もは、かりある心に例あれば、かみのその字をかく也、侍従黒方このふた種は、霜雪のころさむきにあはせよとつたへたり、是は人のつたへもうけず、ふるふみにかきをきしをもみず、としどしあはせこゝろみてかくなしを、きしを、人のみせよといふに、あらためて序代をのぶ、

梅花 沈香五分 丁香一分 貝香一分 麝香一分 荷葉 沈香七分 甘松二分 丁香二分 藿香二分 安息香一分 鬱金三分 菊

花甘松 三朱 薰陸三朱 麝香一分

さくの花のいかにもかうばしきを取て、うすやうの下にきくをまきて、その上にてかうぐをか

さねて、すぐにつゝみて、五日を経て、そのはなを撤して、烏鷺をあはせ蜜をあはするなり、

落葉 沈香四分 甘松一分 丁香一分 麝香二分 侍従 沈香四分 丁香二分 占唐一分 鹿香一分 占 黒方 沈香五分

〔六種薫物合〕夏衣

仙人 沈四兩 丁子二兩 甲香一兩二分 甘松一分 白檀一兩三分 柏木一分 麝香二分

いさり舟 沈八兩二分 丁子四兩二分 甲香三兩二分 甘松一兩一分 薰陸一分

松風 沈四兩 丁子二兩 鬱金二分 朱一分 甘松一分 朴根二分

さく露 沈四兩 丁子二兩 甲香一兩 薰陸一分 甘松一分 麝香二分

薰陸 三分 麝香二分